

情報科学類

College of Information Science

- 学士（情報科学）
- Bachelor of Information Science
- 学士（情報工学）
- Bachelor of Information Engineering

人材養成目的 / Program Educational Objectives

急速に変化する情報社会における学問的・社会的課題に主体的に取り組み、新たな価値を創造できる人材の養成を目的とします。現代社会の基盤である情報を的確に収集・分析・理解・表現・活用する能力を涵養し、汎用性に根ざした幅広い視野と、情報科学の高度な専門知を融合させる教育を通じて、情報社会の持続的発展と変革を牽引する創造的・実践的な人材を育成します。

| | |
|---------|---|
| 養成する人材像 | 現代社会を支える情報技術の基盤となる情報システムやソフトウェア、数理等を体系的に修得し、現代社会を支える情報技術の根幹を深く理解する能力を有する人材を養成します。これらの知識を基盤に、実社会の多様な課題に対して情報科学的アプローチを用い、説明可能で説得力のある方法により解決へ導く実践力を涵養します。さらに論理的思考力や高度なデータリテラシーを身に付けるとともに、情報倫理と社会的責任を自覚し、グローバルかつ協働的に活躍できる人材を育成します。 |
| 卒業後の進路 | 卒業後には、大学院に進学し、情報理工学、人工知能、データサイエンス、量子コンピューティングなど最先端分野の研究に挑戦し、研究者や高度専門職として学術・産業の発展に寄与する道が開かれています。さらには、情報通信、ソフトウェア、製造、金融、医療、教育、行政など、情報技術を必要とする幅広い分野において活躍することが期待されます。想定される職種には、システムエンジニア、ソフトウェア開発者、データサイエンティスト、AI・IoT 開発者、UX デザイナー、IT コンサルタント、さらには革新的スタートアップの創業者などが含まれます。卒業生は、国内外の産官学の多様な場で、技術的リーダーシップと協働力を発揮し、社会の持続的発展と課題解決に貢献する中核的人材となります。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、本学群・学類の人材養成目的に基づき、以下の知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（情報科学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 情報科学の基礎 | 情報の表現、モデル化、抽象化の手法と基礎となる数学を理解し活用する能力 |
| | 2. ソフトウェアサイエンス分野の専門能力 | 数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す能力 |
| | 3. 情報システム分野の専門能力 | ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる能力 |
| | 4. 知能情報メディア分野の専門能力 | 多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる能力 |
| | 5. 専門英語コミュニケーション力 | 情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力 |
| | 6. 実践的技術力と問題解決能力 | 情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力 |
| | 7. 専門技術者としての情報倫理 | 情報化社会をリードする専門技術者・研究者としての情報倫理、セキュリティ、知的所有権の理解 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学修の集大成として卒業研究を重視し、卒業論文およびその最終発表を通じて指導教員に加えて複数の教員により客観的に学修成果と達成状況を確認します。加えて、学生の成績および卒業要件達成状況、アンケート調査、卒業論文などの成果物を通じて、教育プログラム全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（情報科学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 ハードウェア・ネットワークからソフトウェア・知能メディアまで、情報分野における国際標準のカリキュラムを包含し、最新の技術動向を反映した質の高いカリキュラムを提供します。情報科学・工学に関する幅広い知識とともに、プログラム理論・プログラム言語論や数理モデリング・アルゴリズム、ソフトウェア科学、知能インタフェースなどの情報科学分野における高度な専門性を身につけることができるようバランスのとれた教育を実施するとともに、学生が自ら選択し学ぶことを重視します。</p> <p>対応する科目区分・科目群など</p> <ul style="list-style-type: none"> - 情報科学の基礎能力については、数学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して情報科学の諸問題を分析する能力を身につけます。 - ソフトウェアサイエンス分野の専門能力については、ソフトウェアサイエンス実験などを含む専門科目を修め、数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解したうえで、質の高いソフトウェアを作り出す能力を身に付けます。 - 情報システム分野の専門能力については、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術などに係る専門科目を修め、これらを体系的に把握し理解したうえで、情報システムをデザインすることができる能力を身に付けます。 - 知能情報メディア分野の専門能力については、多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術などに係る専門科目を修め、これらを体系的に理解したうえで、応用できる能力を身に付けます。 - 専門英語コミュニケーション力については、専門英語に係る専門基礎科目、専門科目を修め、情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を身に付けます。 - 実践的技術力と問題解決能力については、演習科目や卒業研究を通して情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を身に付けます。 - 専門技術者としての情報倫理については、情報倫理に係る専門基礎科目を納め、情報化社会をリードする専門技術者・研究者としての情報倫理、セキュリティ、知的所有権に対する理解を身に付けます。 <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1・2年次には、英語を含む外国語、幅広い分野から自ら選択して学習する科目、体育などを通じて、社会人として活躍するための教養を身につけます。また、数学など情報科学・工学の基礎となる科目群を修得するとともに、ハードウェア、プログラミング、アルゴリズムなど基盤となる事項を実習や実験を交えて学習することで、情報科学の基礎能力を獲得します。 - 3年次には、ソフトウェアサイエンス主専攻のカリキュラムのもとで、数理モデリング・アルゴリズムやソフトウェア科学などを中心とした授業により、情報科学分野に関する知識と高い専門能力を獲得します。さらに、ソフトウェアサイエンス実験により、実践的技術力と問題解決能力を獲得します。また、情報システムや知能情報メディア分野を含めた広範な情報科学・工学における専門的学修により、幅広い専門知識と専門技術を獲得します。 - 4年次においては、上記の学修に加えて、卒業研究・専門語学により情報科学における革新的技術を生み出せる創造力とチャレンジ精神を滋養するとともに、国際的な視点からの発想力とコミュニケーション能力、協調性を身につけ、実社会で通用する実践的技術力と問題解決能力を獲得します。 <p>実施に関する方針 情報科学・工学の専門科目のみならず、数学、英語などの基礎となる科目においても、演習やコンピュータによる実習・実験を多く取り入れ、講義で得た知識や技術への理解を深める教育を実施します。また、学生が自らテーマ設定・計画立案をして学習する科目など、学生の自主性を引き出すための科目群を用意します。</p> |
|-----------------------|--|

学修の方法
特色的な教育

理論と実践を往還しながら学ぶ教育方法を重視し、専門知識と応用力を兼ね備えた人材を育成します。特に、以下の特色ある教育を展開しています。

「組み込み技術キャンパス OJT プログラム」では、企業で実際に製品開発に携わる講師による指導を通じて、現場に直結した実践的な知識と技能を修得します。「プログラミングチャレンジ」では、競技プログラミングを題材に、アルゴリズムの深い理解とプログラミング能力の向上を図ります。「主専攻実験」では、情報科学の多様な専門領域における実験や演習を通じて、実践的技術力と問題解決能力を養います。「情報科学特別演習」や「情報特別演習 I・II」では、自主的なテーマ設定と解法設計を重視し、発案力・実現力・表現力を育成することで、創造的な問題解決能力を涵養します。さらに、インターンシップ科目を通じて企業や研究機関における実習を経験することで、専門的知識の社会的応用を理解するとともに、実践力やコミュニケーション能力を高め、社会で主体的に活躍できる素地を培います。

育成する能力とカリキュラムの構造

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|---|--|--|---|
| <p>専門基礎科目</p> <p>数学、専門英語基礎など、情報学の基礎能力を獲得します。</p> | <p>専門基礎科目(学類共通)</p> <p>情報科学・工学の基盤となる理論と技術を学び、豊かな情報学的素養と高い社会的倫理感を身につけます。</p> | <p>専門科目 (ソフトウェアサイエンス主専攻)</p> <p>プログラム理論・プログラム言語論や数理モデリング・アルゴリズム、ソフトウェア科学、知能インタフェースなどの情報科学分野に関する専門的授業と実験により、高度な専門性、実践的技術力、問題解決能力等を獲得します。</p> | <p>卒業研究・専門語学</p> <p>創造力、問題解決能力、コミュニケーション能力等を修得します。</p> |
| <p>共通科目</p> <p>外国語、体育、情報など社会人として活躍する素養を身につけます。</p> | | | |
| <p>関連科目</p> <p>他学群・学類科目から自由選択し、幅広い教養を獲得します。</p> | | | |

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|-----------------------|--|--|
| <p>求める人材</p> | <p>情報技術や自然科学・工学に強い好奇心と探究心を持ち、その学習のために必要な基礎学力を有し、修得した知識を創造的に活用・発展させて新しい課題に積極的に取り組み、情報化社会の中核を担う意欲のある人材を求めます。</p> | |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>個別学力検査等前期日程</p> | <p>数学、理科、外国語の基礎学力に加えて、高等学校等における主体性をもった活動の状況を評価します。</p> |
| | <p>推薦入試</p> | <p>高等学校における学習状況と課外活動への取組みとともに、情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、自己表現能力、論理的に思考しその結果を的確に説明するコミュニケーション能力等を総合的に評価します。</p> |
| | <p>AC入試</p> | <p>情報科学や情報技術、または関連する分野に強い関心を持ち、自ら研究課題と明確な目標を設定して問題の分析や解決を創造的に図る意欲と能力を有し、その過程と結果を論理的に説明することのできる人材を選抜します。</p> |
| | <p>国際科学オリンピック特別入試</p> | <p>日本情報オリンピック本選でAランクとなった者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ能力を評価します。</p> |
| | <p>国際バカロレア特別入試</p> | <p>情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、論理的思考能力、語学力を含めたコミュニケーション能力等を総合的に評価します。</p> |
| | <p>外国学校経験者特別入試</p> | <p>第1種) 第2種) 情報科学や情報技術への関心や学習意欲、数学の基礎学力と論理的思考力、日本語及び英語によるコミュニケーション能力等を評価します。</p> |
| | <p>編入学試験</p> | <p>情報科学や情報技術を学ぶために必要な数学、情報基礎、専門的知識を学ぶために必要な大学2年次修了程度の英語（TOEFL/TOEICスコアによる）の学力を総合的に評価します。</p> |

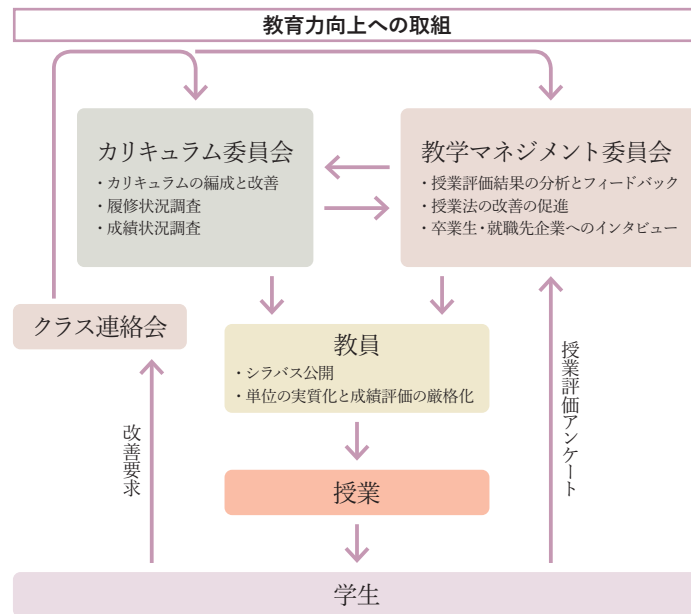
学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|--------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <p>学生一人ひとりの成長をサポートするため、学年ごとに体系的な学修支援を提供しています。1・2年次には、学びの土台を築くことを目指します。図書館の活用法や大学生活のルールなど、学修と生活をスムーズに進めるための基礎知識を提供します。また、技術英語のライティング技法を習得するための支援も行い、専門科目の学修に備えます。3・4年次では、より高度な学びを支援します。実験科目や卒業研究において、テクニカルライティングや効果的なプレゼンテーション技法について個別に指導を行い、専門分野における表現力を高めます。また、学生生活全般にわたるサポートも充実しています。1～3年次ではクラス担任、そして4年次では指導教員が面談などを通して学生の状況を丁寧に把握します。学修面や生活面における課題の解決をサポートし、学生が安心して学修に専念できる環境を整えています。</p> |
|--------------------|--|

| | |
|------------------------------|---|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <p>入学直後の科目「ファーストイヤーセミナー」でのグループワークを通じて、学生は早い段階から協力関係を築き、学問への導入を円滑に進めます。また、学生主体で運営される「クラス代表者会議」は、学年を超えた議論と交流の場となり、学類全体の課題解決に貢献しています。学生が自由に利用できるフリースペースである「情報科学類学生ラウンジ」には、プロジェクターやホワイトボードが完備されており、協働的な学習や活発な意見交換を促す創造的な拠点となっています。さらに、留学生には専属の学生チューターが配置され、学修・生活支援に加え、他学生との文化的な橋渡し役を担うことで、多様性の中で互いに高め合う豊かなコミュニティを育てています。これらの取り組みにより、学生は共に学び、成長する中で、一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことができます。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>学生の学修意欲と研究の質を高めるため、教員との密接な交流を促す様々な機会を設けています。例えば、1年次選択科目「情報科学特別演習」と2・3年次の「情報特別演習」では、学生が自身の興味に基づき演習テーマとアドバイザー教員を自由に選択することで、発案力や実現力を養い、専門分野への探求心を深めます。また、3年次の実験科目においても、学生が多数の候補から希望するテーマを選択できる仕組みを導入し、主体的な学びを支援しています。さらに、学生と教員が直接意見交換を行う「クラス連絡会」を年に複数回開催し、学生の提案や意見を議論することで、より良い教育環境を共に創造する場としています。これらの取り組みを通じて、学生は教員との対話の中で自身の知見を広げ、深い学びと研究への情熱を育てています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

情報科学類のもとに置く教学マネジメント委員会にて、全ての授業に対して行う授業評価アンケートを実施します。アンケートは定型質問と自由書式からなり、授業内容・進め方に関する包括的データと学生の意見を効率的に収集すると共に、学生自身にも授業への向き合い方を考える機会を与えます。教学マネジメント委員会はアンケート結果を分析し、教員とカリキュラム委員会へのフィードバックと改善の勧告などを行います。また、学生と教員の直接的な意見交換の場であるクラス連絡会を通し、カリキュラム委員会及び教学マネジメント委員会が要望等に対応します。教員相互による授業参観や講演会を適宜実施し、特に新人・若手教員の教育スキル向上に努めます。学修成果の評価において実施・収集した結果は、全ての教員が参加する教育会議において分析・検討し、さらなる改善に努めます。



学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、本学群・学類の人材養成目的に基づき、以下の知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（情報工学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 情報科学の基礎 | 情報の表現、モデル化、抽象化の手法と基礎となる数学を理解し活用する能力 |
| | 2. ソフトウェアサイエンス分野の専門能力 | 数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す能力 |
| | 3. 情報システム分野の専門能力 | ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる能力 |
| | 4. 知能情報メディア分野の専門能力 | 多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる能力 |
| | 5. 専門英語コミュニケーション力 | 情報工学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力 |
| | 6. 実践的技術力と問題解決能力 | 情報工学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力 |
| | 7. 専門技術者としての情報倫理 | 情報化社会をリードする専門技術者・研究者としての情報倫理、セキュリティ、知的所有権の理解 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学修の集大成として卒業研究を重視し、卒業論文およびその最終発表を通じて指導教員に加えて複数の教員により客観的に学修成果と達成状況を確認します。加えて、学生の成績および卒業要件達成状況、アンケート調査、卒業論文などの成果物を通じて、教育プログラム全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（情報工学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 ハードウェア・ネットワークからソフトウェア・知能メディアまで、情報分野における国際標準のカリキュラムを包含し、最新の技術動向を反映した質の高いカリキュラムを提供します。情報科学・工学に関する幅広い知識とともに、ハードウェア・ネットワーク・基盤ソフトウェアから知能メディア・メディア情報学などの情報工学分野における高度な専門性を身につけることができるようバランスのとれた教育を実施するとともに、学生が自ら選択し学ぶことを重視します。</p> <p>対応する科目区分・科目群など</p> <ul style="list-style-type: none"> - 情報科学の基礎能力については、数学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して情報科学の諸問題を分析する能力を身につけます。 - ソフトウェアサイエンス分野の専門能力については、数理モデリングとプログラムなどに係る専門科目を修め、これらの構成原理および手法を理解したうえで、質の高いソフトウェアを作り出す能力を身に付けます。 - 情報システム分野の専門能力については、情報システム実験などを含む専門科目を修め、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術などを体系的に把握し理解したうえで、情報システムをデザインすることができる能力を身に付けます。 - 知能情報メディア分野の専門能力については、知能情報メディア実験などを含む専門科目を修め、多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解したうえで、応用できる能力を身に付けます。 - 専門英語コミュニケーション力については、専門英語に係る専門基礎科目、専門科目を修め、情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を身に付けます。 - 実践的技術力と問題解決能力については、演習科目や卒業研究を通して情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を身に付けます。 - 専門技術者としての情報倫理については、情報倫理に係る専門基礎科目を納め、情報化社会をリードする専門技術者・研究者としての情報倫理、セキュリティ、知的所有権に対する理解を身に付けます。 <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1・2年次には、英語を含む外国語、幅広い分野から自ら選択して学習する科目、体育などを通じて、社会人として活躍するための教養を身につけます。また、数学など情報科学・工学の基礎となる科目群を修得するとともに、ハードウェア、プログラミング、アルゴリズムなど基盤となる事項を実習や実験を交えて学習することで、情報科学の基礎能力を獲得します。 - 3年次には、情報システム主専攻・知能情報メディア主専攻のカリキュラムのもとで、基盤ソフトウェア・システム構築や知能情報・メディア工学などの授業により、情報工学分野に関する知識と高い専門能力を獲得します。さらに、情報システム・知能情報メディア実験により、実践的技術力と問題解決能力を修得します。また、ソフトウェアサイエンス分野を含めた広範な情報科学・工学における専門的学修により、幅広い専門知識と専門技術を獲得します。 - 4年次においては、上記の学修に加えて、卒業研究・専門語学により情報工学における革新的技術を生み出せる創造力とチャレンジ精神を滋養するとともに、国際的な視点からの発想力とコミュニケーション能力、協調性を身につけ、実社会で通用する実践的技術力と問題解決能力を獲得します。 <p>実施に関する方針 情報科学・工学の専門科目のみならず、数学、英語などの基礎となる科目においても、演習やコンピュータによる実習・実験を多く取り入れ、講義で得た知識や技術への理解を深める教育を実施します。また、学生が自らテーマ設定・計画立案をして学習する科目など、学生の自主性を引き出すための科目群を用意します。</p> |
|-----------------------|--|

学修の方法
特色的な教育

理論と実践を往還しながら学ぶ教育方法を重視し、専門知識と応用力を兼ね備えた人材を育成します。特に、以下の特色ある教育を展開しています。

「組み込み技術キャンパス OJT プログラム」では、企業で実際に製品開発に携わる講師による指導を通じて、現場に直結した実践的な知識と技能を修得します。「プログラミングチャレンジ」では、競技プログラミングを題材に、アルゴリズムの深い理解とプログラミング能力の向上を図ります。「主専攻実験」では、情報科学の多様な専門領域における実験や演習を通じて、実践的技術力と問題解決能力を養います。「情報科学特別演習」や「情報特別演習Ⅰ・Ⅱ」では、自主的なテーマ設定と解法設計を重視し、発案力・実現力・表現力を育成することで、創造的な問題解決能力を涵養します。さらに、インターンシップ科目を通じて企業や研究機関における実習を経験することで、専門的知識の社会的応用を理解するとともに、実践力やコミュニケーション能力を高め、社会で主体的に活躍できる素地を培います。

育成する能力とカリキュラムの構造

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|--|--|--|---|
| <p>専門基礎科目</p> <p>数学、専門英語基礎など、情報学の基礎能力を獲得します。</p> | <p>専門基礎科目(学類共通)</p> <p>情報科学・工学の基盤となる理論と技術を学び、豊かな情報学的素養と高い社会的倫理感を身につけます。</p> | <p>専門科目 (情報システム・知能情報メディア主専攻)</p> <p>ハードウェア・ネットワーク・基盤ソフトウェアから知能メディア・メディア情報学などの情報工学分野に関する専門的授業と実験により、高度な専門性、実践的技術力、問題解決能力等を獲得します。</p> | <p>卒業研究・専門語学</p> <p>創造力、問題解決能力、コミュニケーション能力等を修得します。</p> |
| <p>共通科目</p> <p>外国語、体育、情報など 社会人として活躍する素養を身につけます。</p> | | <p>専門科目(その他)</p> <p>ソフトウェアサイエンス分野の学習、インターンシップを通じて、情報分野に関する幅広い知識と技術を獲得します。</p> | |
| <p>関連科目</p> <p>他学群・学類科目から自由選択し、幅広い教養を獲得します。</p> | | | |

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|-----------------------|--|--|
| <p>求める人材</p> | <p>情報技術や自然科学・工学に強い好奇心と探究心を持ち、その学習のために必要な基礎学力を有し、修得した知識を創造的に活用・発展させて新しい課題に積極的に取り組み、情報化社会の中核を担う意欲のある人材を求めます。</p> | |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>個別学力検査等前期日程</p> | <p>数学、理科、外国語の基礎学力に加えて、高等学校等における主体性をもった活動の状況を評価します。</p> |
| | <p>推薦入試</p> | <p>高等学校における学習状況と課外活動への取組みとともに、情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、自己表現能力、論理的に思考しその結果を的確に説明するコミュニケーション能力等を総合的に評価します。</p> |
| | <p>AC 入試</p> | <p>情報科学や情報技術、または関連する分野に強い関心を持ち、自ら研究課題と明確な目標を設定して問題の分析や解決を創造的に図る意欲と能力を有し、その過程と結果を論理的に説明することのできる人材を選抜します。</p> |
| | <p>国際科学オリンピック特別入試</p> | <p>日本情報オリンピック本選で A ランクとなった者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ能力を評価します。</p> |
| | <p>国際バカロレア特別入試</p> | <p>情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、論理的思考能力、語学力を含めたコミュニケーション能力等を総合的に評価します。</p> |
| | <p>外国学校経験者特別入試</p> | <p>第 1 種) 第 2 種) 情報科学や情報技術への関心や学習意欲、数学の基礎学力と論理的思考力、日本語及び英語によるコミュニケーション能力等を評価します。</p> |
| | <p>編入学試験</p> | <p>情報科学や情報技術を学ぶために必要な数学、情報基礎、専門的知識を学ぶために必要な大学 2 年次修了程度の英語 (TOEFL/TOEIC スコアによる) の学力を総合的に評価します。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|--------------------|---|
| <p>学修支援</p> | <p>学生一人ひとりの成長をサポートするため、学年ごとに体系的な学修支援を提供しています。1・2 年次には、学びの土台を築くことを目指します。図書館の活用法や大学生活のルールなど、学修と生活をスムーズに進めるための基礎知識を提供します。また、技術英語のライティング技法を習得するための支援も行い、専門科目の学修に備えます。3・4 年次では、より高度な学びを支援します。実験科目や卒業研究において、テクニカルライティングや効果的なプレゼンテーション技法について個別に指導を行い、専門分野における表現力を高めます。また、学生生活全般にわたるサポートも充実しています。1～3 年次ではクラス担任、そして 4 年次では指導教員が面談などを通して学生の状況を丁寧に把握します。学修面や生活面における課題の解決をサポートし、学生が安心して学修に専念できる環境を整えています。</p> |
|--------------------|---|

| | |
|------------------------------|---|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <p>入学直後の科目「ファーストイヤーセミナー」でのグループワークを通じて、学生は早い段階から協力関係を築き、学問への導入を円滑に進めます。また、学生主体で運営される「クラス代表者会議」は、学年を超えた議論と交流の場となり、学類全体の課題解決に貢献しています。学生が自由に利用できるフリースペースである「情報科学類学生ラウンジ」には、プロジェクターやホワイトボードが完備されており、協働的な学習や活発な意見交換を促す創造的な拠点となっています。さらに、留学生には専属の学生チューターが配置され、学修・生活支援に加え、他学生との文化的な橋渡し役を担うことで、多様性の中で互いに高め合う豊かなコミュニティを育てています。これらの取り組みにより、学生は共に学び、成長する中で、一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことができます。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>学生の学修意欲と研究の質を高めるため、教員との密接な交流を促す様々な機会を設けています。例えば、1年次選択科目「情報科学特別演習」と2・3年次の「情報特別演習」では、学生が自身の興味に基づき演習テーマとアドバイザー教員を自由に選択することで、発案力や実現力を養い、専門分野への探求心を深めます。また、3年次の実験科目においても、学生が多数の候補から希望するテーマを選択できる仕組みを導入し、主体的な学びを支援しています。さらに、学生と教員が直接意見交換を行う「クラス連絡会」を年に複数回開催し、学生の提案や意見を議論することで、より良い教育環境を共に創造する場としています。これらの取り組みを通じて、学生は教員との対話の中で自身の知見を広げ、深い学びと研究への情熱を育てています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

情報科学類のもとに置く教学マネジメント委員会にて、全ての授業に対して行う授業評価アンケートを実施します。アンケートは定型質問と自由書式からなり、授業内容・進め方に関する包括的データと学生の意見を効率的に収集すると共に、学生自身にも授業への向き合い方を考える機会を与えます。教学マネジメント委員会はアンケート結果を分析し、教員とカリキュラム委員会へのフィードバックと改善の勧告などを行います。

また、学生と教員の直接的な意見交換の場であるクラス連絡会を通し、カリキュラム委員会及び教学マネジメント委員会が要望等に対応します。教員相互による授業参観や講演会を適宜実施し、特に新人・若手教員の教育スキル向上に努めます。学修成果の評価において実施・収集した結果は、全ての教員が参加する教育会議において分析・検討し、さらなる改善に努めます。

